

平成30年9月定例会 文教厚生委員会

平成30年10月9日（火）

〔委員会の概要 保健福祉部〕

山西委員長

ただいまから、文教厚生委員会を開会いたします。（13時03分）

直ちに、議事に入ります。

これより、保健福祉部関係の調査を行います。

この際、追加提出予定議案について、理事者から説明願うとともに、報告事項があればこれを受けることにいたします。

【提出予定議案】（説明資料（その3））

○ 議案第26号 平成30年度徳島県一般会計補正予算（第4号）

久山保健福祉部長

9月定例会に追加提出を予定いたしております、保健福祉部関係の案件につきまして、御説明申し上げます。

お手元に御配付の文教厚生委員会説明資料（その3）の1ページをお願いいたします。

一般会計の総括表でございます。

健康増進課で補正予算をお願いいたしております。

総括表の一番下の計の欄を御覧ください。

補正予算の総額は6,500万円でございます。補正後の予算総額は787億6,934万2,000円となっております。

財源は、財源内訳欄に記載のとおりです。

2ページをお願いいたします。

課別主要事項、健康増進課でございます。

予防費の摘要欄①のア、風しん抗体検査等推進事業費6,500万円は、現在、関東地方を中心に風しん患者が急増しており、本県でも10月1日に2人目の患者が確認され、今後、さらなる感染の拡大が懸念されることから、県民の皆様の安全・安心を確保するため、妊娠を希望される又は妊娠する可能性の高い女性及び28歳から56歳の男性を対象に、市町村と連携した予防接種の促進につなげる、無料の風しん抗体検査を実施する経費でございます。

説明は以上であります。

御審議のほど、よろしくお願いいたします。

山西委員長

以上で説明は終わりました。

これより質疑に入りますが、質疑に入るに先立ち、委員各位に申し上げます。

本日は、議案第26号に限った質疑とさせていただきたいと思っておりますので、円滑な議事運営について、委員各位の御協力をお願い申し上げます。

また、本日午前中に開催された議会運営委員会において、議案第26号については、本日の委員会において十分審査し、議案提出予定の閉会日には、委員会付託を省略して議決することと決定いたしておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、質疑をどうぞ。

岡田委員

今回、全国的な風しんの流行状況や、また県内で患者さんが発生されたということを受けて、非常に急なことだと思うんですが、補正予算を作るということに至った経緯と、風しん抗体検査等推進事業が提案されたということなんですけど、その事業が提案された経緯について説明いただけますか。

柴原感染症・疾病対策室長

ただいま、岡田委員より、今回の事業が急きょ補正予算に至った経緯、背景について御質問を頂いております。

本年7月頃から、千葉県や東京都など関東地方を中心に風しん患者が大幅に増加しており、全国的に感染が拡大する恐れがございます。

国内の患者発生は9月23日までで770人、その数は昨年のおよそ8倍となっております。前回の流行期には約1万4,000人の患者が発生し、こうした状況に大流行の懸念がございます。

本県におきまして、9月3日に3年ぶりとなる患者が発生、10月1日にも2例目の発生が見られました。

風しんは妊娠初期の女性が感染すると、心疾患や難聴などの障がいがある先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性がございます。

このため県といたしましては、県は無料の抗体検査を実施する、抗体価が低い人に対するワクチン接種については市町村が助成するという一方で、県と市町村が連携して実施し県全体で風しんの流行を抑制し、安心して子供を産み育てることができる徳島の実現に取り組んでいくこととしたいと考えております。

岡田委員

風しんの抗体検査について、抗体のまずは検査をするための補助というか補正予算ということなんですけども、その検査をするための推進事業の概要と仕組み、取組について、もう少し詳しくお願いできますか。

柴原感染症・疾病対策室長

事業の概要、仕組みについて御質問を頂いております。

県が行うこの無料の抗体検査でございますが、明らかに風しんにかかっていることが確認されている人を除きまして、過去の予防接種制度の経緯によりまして、抗体の保有率が低くなっている28歳から56歳の男性及び妊婦への感染を防止する点から、妊娠を希望する女性、可能性のある女性は全て県が無料で保健所及び協力医療機関において抗体検査を行うものでございます。

抗体価が低い人には医療機関で予防接種を行う必要がございますが、これについては、各市町村において助成制度を設けて促進することといたしております。

また普及啓発事業といたしまして、マスメディアを活用した情報発信や関係機関と連携した働き盛りの世代の特に男性への広報啓発にも取り組んでまいりたいと考えております。

岡田委員

では、この抗体のあるかないかの検査をする方たちの対象として、妊娠の可能性のある女性の世代と、男性につきましては28歳から56歳ってということなんですけど、実は私、中学校3年生のときに女子だけ風しんのワクチンを打つという世代でして、ちょうどその前後でいきますと、中学校3年生の女子だけ集められて、女子だけ受けてってというのは、将来妊娠したときに子供に影響があるからと。

その30年ぐらい前から風しんの怖さについてはずっと伝えられてきていたというか、そのときから予防接種を受けていたんですけど、その経緯からしますと56歳っていう同世代の男性になるので、その世代の男性って受けてないんですね。

そしたら、今言われてる28歳から56歳っていう方たちは、特に男性の方は風しんにかかったときの対応策というか、それについては別に影響がないからということで予防接種を受けずにきた世代ということで、今回抗体があるかないか分からないので、その世代の方たちを対象にまずは抗体検査を受けてくださいってということで、今回その世代を限定されてやられているということと、女性につきましては、妊娠した場合には風しんに後でかかると大変なことになるからというような御説明だったんですけども、それでいきますと6,500万円って今回予算がなされてるんですけども、6,500万円って結構な金額と思うんですけども、その対象者として28歳から56歳までの男性の方の抗体検査を受けてもらうに当たっての対象として的人数と、妊娠を希望している女性の方の人数ということで6,500万円って金額が妥当なのか、それとも多いのか、逆に言うと少ないのかってところがあると思うんですけど、そのあたりはどういうふうに計算をされて、その金額が出たんでしょうか。

柴原感染症・疾病対策室長

今回の予算案の6,500万円についての御質問を頂いております。

平成25年度、平成26年度に抗体検査の事業を実施しておりますけれども、そのときの実績といたしまして1万人の方の検査を行っております。

それによりまして、流行を抑えることができたことを踏まえて、今回県民の予防意識の高まりによる増加にも対応できるように1万1,000人が対応可能な予算計上をさせていただいております。

岡田委員

そうしましたら、大体、その抗体検査をしてもらう対象者、今回は1万1,000人を対象にということで、大体28歳から56歳の方の内、どれぐらいの割合の方が検査を受けてもらうような計算なんですか。

柴原感染症・疾病対策室長

前回抗体検査実施時は、30代の方が半数ぐらい、20代、40代がそれぞれ25%程度でございました。

前回流行期の受検者数を勘案いたしまして1万1,000人でそれぐらいの方がまた受けていただけるようにというふうに考えております。

岡田委員

今回、補正予算を出してでも防ごうとしているのは、大流行を抑えるという意味と妊婦さんを守る、若い女性の今後妊娠しようとしている方たちを守っていくという意味での目的ですので、予算が6,500万円なので1万1,000人が対象ですというお話なんですけど、できるだけ多くの方に受けてもらわないと、せっかくの補正予算を組んで、今こうやってわざわざ委員会まで開いて審議しているようなところになるんですから、少しでも皆さんに受けてもらえるような体制づくりを是非してもらいたいと思うし、1万人の方が受けてくれたから大流行にならずに済んだというさっきの説明にもありましたけど、それが目的ではなくて、少しでも一人でも多くの方に抗体検査を無料で受けられるという、今回の補正予算の取組を知ってもらって、一人でも多くの方に意味を理解してもらって、特に妊娠する可能性のある若い女性たちの周りにいらっしゃる若い男性の方とその抗体がないであろうというか、今までワクチンの接種を受けたことがないであろう男性の方たちを対象に、今回抗体検査をするという仕組みになっているので、是非、できるだけ多くの方に受けてもらえるように、そして、前は25%ぐらいの方がっていう話だったんですけど、今回はもっと多くの方が受けてもらえるように取組をしていただければなと思いますので、お願いしたいと思います。

それで、今回受けてもらいたいなと思っても、場所がどこで受けられるかということと、今後どこの病院でも受けられるのか、それとも保健所だけになっているのか、保健所だったら、それこそ平日の昼間だけとかっていうような制限が付いてきたりするんで、そうすると、特に28歳から56歳の男性っていうと、ほぼ仕事されてる方が対象になってくると思うので、その方たちに向けての予防接種を受けてもらえる場所として、どのような所を考えられているんですか。

柴原感染症・疾病対策室長

検査ができる場所についての御質問を頂いております。

県内の保健所6か所ありますけれども、6保健所でだいたい毎週又は隔週で、現在実施している他の検査と合わせて実施いたしたいと考えております。

なお、10月23日火曜日と10月30日の火曜日に限りなんですけれども、徳島保健所では18時から19時に実施していきたいと考えております。

また医療機関になりますけれども、平成25年から実施した抗体検査につきまして、県の医師会の御協力を頂きまして、県内約400の病院や診療所で検査が可能でございました。

この度の抗体検査事業におきましても同程度の規模を確保し、より多くの県民の皆様が身近な場所で検査が可能となるよう体制を整えてまいりたいと考えております。

なお現在、県医師会とは御相談しており、積極的に御協力いただける見込みであるということ聞いております。

すいません、先ほどの男性の対象者につきまして補足をさせていただけたらと思えます。対象者につきましては、約11万人の方が対象でありますので、そういった方も視野に入れて対象としていきたいと思っております。

岡田委員

できるだけ多くの方に受けてもらいたいという、先ほど11万人の方が対象というお話があったんですけど、そうすると夜間検査について10月23日と10月30日に限り、徳島保健所で行っていただけるっていう情報を頂いたんですけども、その方たちが対象に行くとなると、夜間っていうのは8時、9時とかっていう夜の時間帯、仕事が終わってから行ける時間帯なのかっていうことと、それともう一つは、近くで仕事の合間にでも検査に行けるということで、お昼休みにちょっと行ってもらってというような感じでとか、仕事の終わりにすぐに会社の横で近くでということになると、一般の病院で検査を受けられるっていう体制づくりは早急にさせていただかないと、せっかく予算立てをして皆さんに受けてもらって、それと早い話、感染症なので一刻も早く感染を防ぐという意味で言っても、早く抗体検査をするのが目的じゃなくって、抗体がない方に関しては、本来の予防接種を受けてもらわないかんっていうところが最終目的ですので、さっきから早く早くって言ってますが、待たなしで取り組んでいただきたいと思うんですけど、その取組としては協力いただける見込みですっていう話だったんですけど、見込みじゃなくってやってくださいって是非お願いして、取り組んでいただきたいと思うんですけど、いかがですか。

柴原感染症・疾病対策室長

保健所におきましても、また、医療機関におきましても、見込みということで御説明をさせていただいたところでございますけれども、医療機関の先生、医師会につきましても、積極的にほんとに早くやっついこうといったお声も頂いておりますので、関係機関と連携してできるだけ早く体制を整えて実施してまいりたいと考えております。

岡田委員

今回の補正予算は、抗体があるかないかの検査をする費用であって、本来の風しんワクチンを受けるのは市町村の助成というか取組というお話があったんですけど、その場合、県内全ての市町村が取り組んでもらえるのか、そして予防接種の自己負担っていうのは結構高いって聞いてるんですけど、その自己負担っていうのはどれぐらいの金額になる想定なんですか。

柴原感染症・疾病対策室長

市町村の助成が今後どうなるのかという御質問を頂いております。

前回同様、全市町村で助成事業ができるように、現在市町村とも調整を進めているところです。どの市町村におきましても前向きに考えていただけると考えております。

今後、市町村の担当者に向けての説明会を開催する予定で、全市町村で実施できるよう

に、引き続き協力をお願いしていくこととしております。

また、助成制度の内容でございますけれども、まず予防接種の費用は約1万円でございます。なお、この予防接種に対する助成は市町村の単独事業で各市町村において御判断いただくものでございますけれども、前回のときは大体半額の助成、自己負担が5,000円程度となっていたところでございます。

今回も同程度の助成ができるよう、引き続き各市町村をお願いしてまいりたいと考えております

岡田委員

そしたら、抗体検査を受けるのは無料でしてくれる、これも5,500円ぐらいの値段だと聞いているのですが、それが無料になるという今回の補正予算と今度は本来の予防接種を受けるに当たっては1万円ぐらい掛かる分の半額ぐらいが市町村で、自己負担で5,000円から6,000円の負担で受けられるという今回の措置になるということではよろしいですか。はい。

そしたら、自己負担をできるだけ少なくして少しでも多くの方にワクチンの接種を受けてもらえるように是非取り組んでいただいて、風しんの拡大を防ぐとともに妊婦さんというか、妊娠している方たちが安心して外に出て仕事ができる、外に出て活動ができるという部分の取組にもなっていこうかと思うので、是非進めてもらいたいと思います。

そして、これって本年度だけの完了目標なんですか、9月から始まって、風しんって始まる時期ってというのが冬ではないんでしょうか。時期的にもいろいろあるんでしょうけども、来年度にわたっての対応ってというのはどのように考えられていますか。

柴原感染症・疾病対策室長

本年度で事業を完了するのか、来年度の対応をどうするのかという御質問を頂いております。

前回の流行時、平成25年11月から平成27年3月まで2か年にわたり実施してきたところでございますが、平成25年度に7割が検査をしております。

今回は前回の実施分全体をカバーできる予算を確保しておりますが、抗体検査の実施状況や全国的な流行状況も踏まえまして、必要に応じて来年度の対応についても今後検討してまいりたいと考えております。

岡田委員

たくさんの方が早い段階で抗体検査を受けてもらって、風しんワクチンを受けてもらえるような取組を是非進めてもらって、今年度完結できるように進めてもらいたいんですけど、やはり、なかなか行きたくてもいけなかったり、時間的に制約があったりっていうので、また、そんなん知らなかったわっていうことはできるだけないようにしていただきたいんですけど、限られた期間の中でやると、ある程度の、前回7割っていうお話だったんで、残された3割の方にも是非受けしてもらえるように状況も見ながら継続という方向も、また国においては来年度の予算で抗体ワクチンをとという話も出てたので、そのあたりの様子も見ながら、引き続き風しんの抗体ワクチンがない人がいない徳島県を目指して取組を

進めてもらいたいと思います。

そのためには普及啓発の部分について、ものすごく今からの強化といいますか、情報発信っていう部分が大事になってこようと思うんですけど、そのあたりはどのようにされるんですか。

それと今おっしゃっていただいた早速10月23日と10月30日に徳島保健所で夜間も受けられるというような話もおっしゃってたんで、このあたりもすぐに来ますので、そのあたりの情報も含めてどのように啓発されていって積極的な情報発信されるのか教えてください。

柴原感染症・疾病対策室長

普及啓発について御質問を頂いております。

県民の方々に風しんの抗体検査を受けていただくためにも、委員おっしゃるとおり、普及啓発が大変重要であると考えております。

新聞とかタウン誌により風しんについての正しい知識や抗体検査が無料で受けられることを情報提供していきたいと考えております。また、地元のケーブルテレビなどにおいても、働き掛けていきたいと考えております。県のホームページを通じても情報発信する予定としております。

委員がおっしゃった23日と30日、また他の保健所での検査の日程等につきましても、議決後すぐに情報提供をして県民の皆様にお知らせしたいと考えております。

また、今回やはり28歳からの男性の方にもたくさん受けていただきたいということで、働き盛りの方に対しての情報提供を行き渡らせるためにも、職場を通じて情報提供するというのが効果的だと考えておりますので、県内の経済団体や全国健康保険協会徳島支部なども御協力いただいたり、また連携協定を締結して日本生命保険相互会社、アクサ生命保険株式会社などの御協力も得ながら、各企業に対して抗体検査やワクチン接種を呼び掛けるようにしていきたいと考えております。

岡田委員

是非、よろしくお願ひしたいと思います。

そしてまた今おっしゃっていただいたように対象者が働き盛りの方たちであって、その企業の協力であったり、各種団体であったり、町内会であったりっていういろんなところでの働き掛けを是非、積極的に行っていただきまして、本当に風しんは自分がどうというよりも妊娠している女性の方に一番、子供たちに対して影響があるという病気ですので、そのことを正しく認識してもらって、自分がそのキャリアになって人に移さないっていうためにも是非、その風しんの予防接種を抗体がなければ接種をするところを徹底していただくことを目的として、今回の抗体検査をしてもらうっていう取組を、そして抗体検査が終わりじゃなくて、次の予防接種を受けるところが目的ですので、そのあたりをちゃんと意図しながら、その説明を丁寧にしていただいて広報してもらうとともに、徳島県が子育てしやすい、安心して住める、特に妊婦さんにとって脅威がない県になるように取組を進めてもらいたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

西沢委員

あんまり時間がないんで、できるだけ早くするというんが、まず大切なんです。こうやって委員会開いてするという以前に何か方法ないのかなと思います。やはりまず委員会開いてちゃんとするには時間掛かるし市町村もそうですよね。それを一日も早くするというやり方を取れば、これ本当に良いかどうか分からんけど、各議員さんに了解いただいて、もう事前にやってしまうとかそういう形もないのかなと思います。

特に急を要するものであれば、そういうことも考えないかんのではないかな。2日に分かったわけでしょ2人目が、今日になるとしばらく時間たってますからね。それと薬の準備はいけるんですか。

柴原感染症・疾病対策室長

ただいま、西沢委員のほうからワクチンの状況はどうかという御質問を頂いております。本県のはしか、風しんの混合ワクチンの供給につきましては、卸売販売業者4社がワクチンを取り扱っております。

実は本年4月から5月に沖縄県ではしかの流行がありまして、そのときに春から夏にかけて出荷制限が行われておりましたが、現在は、任意接種を希望される方についても対応が可能であるということを卸売販売業者の方からは伺っております。

ただ、全国的にも今回の流行によりワクチン不足も懸念されておりますので、こうした点からも、まずは抗体検査を受けて必要な方がワクチンを接種できるようにということで抽出することも必要であると考えております。

西沢委員

全国が一斉にやるんで、本当に皆さんが全国がやるとなると、そんなに薬はたくさんないと思います、ワクチンなんかでもね。これは言っていていいっていうかどうか分からんけど一日も早くやっていると、そして抑え込むということが必要なんじゃないかと思っておりますので、そういう早くやるやり方そのものをもっと、もしあるんだったらすぐ検討してほしいなというふうに思います。

上村委員

私も、ちょっと2点ほどお聞きしたいと思っております。

大体、岡田委員がおっしゃってくれたんですけども、一つは市町村で大体半額補助って言われたんですけど阿波市なんかは上限が3,000円なんです。

徳島市は半額ですけども、市町村によって差があるんじゃないかということで、抗体検査自体は無料でできても痛い目して高いお金を払わないかんっていうことで、なかなか二の足踏む方が多いと思うんで、市町村に県もワクチン接種自体にも助成をするように、特に30代から50代の全成人に対して補助を行うべきではないかなと思うのですけれども、今回は、抗体検査を無料で一刻も早くやるっていうこと、これ自体私も賛成なんですけど、今後について、そういったことを考えてほしいということと、それと抗体検査をせずにワクチンを接種する場合も是非、費用を助成してあげてほしいということです。市町村によっては、母子手帳を持って行ってワクチンが接種されていないことを確認できれば、それだけで助成をしてくれるところもあるんですけど、抗体検査の証明を持って行かなきゃ

いけないところもありますので、血液検査がすごく嫌でワクチンも接種しないということがないように是非、もう少し対象を広げていただきたいということ。

それから、医療関係、教育関係、保育関係、また妊婦さんの同居家族など、これで必要な全ての人の予防接種が網羅できるわけではないので、医療関係とかそういったものには就職するときには抗体があるかどうかとか、こういった検査もどうもされているようですけれども、この点特に教育、保育関係そういったところでは検査を県としてはどのように抗体があるかないかについて把握できているのかどうかというのと、それと今年8月31日にこの風しんについてのガイドライン第2版が、国立感染症研究所から出されているんですけども、今後の教訓として地域のワクチンの予防接種率の把握が非常に大事だということですけど、県としてはワクチンの予防接種率っていうのは既に把握されてるのかどうか、もしされていないのであれば今後是非こういったことも保健所としてやっていていただきたいなど、要望と質問を合わせて行いましたけど、よろしく願います。

柴原感染症・疾病対策室長

上村委員のほうから、幾つかの質問を頂いております。

県といたしましては、先ほども少し申しましたが抗体検査をして、抗体検査の結果、免疫がない方にワクチン接種をしていただく、市町村のほうではワクチンの接種をするという事業を行っていただく、市町村単独の事業で実施していただくということで役割を分担してやっていきたいと考えております。

また、抗体検査を実施せずにそのままワクチン接種をという御質問もございました。中にはすぐに抗体検査をせずっていう場合もあるかと思っておりますけれども、今回のこの事業につきましては、公費で実施するということがございますので、対象者をきちっと決めまして、その手順に沿って実施していきたいと考えております。

医療関係者とか教育関係者がどれぐらい実施しているかというデータは、ちょっと手持ちではございませんが、これも今回の対象の中に女性については、妊娠を希望される、また妊娠する可能性の高い人は全て対象になる。また男性につきましても28歳から56歳までの方が対象になるというところで、対象を見ていただけたらと考えております。

あとガイドラインについてワクチンの接種率の御質問がありました。

こちらにつきましては、市町村が実施しております定期の一期、二期のワクチン接種率というのが毎年出されておりますけれども、それによりまして把握をしております、徳島県では一期については高い接種率で推移をしているような状況でございます。

上村委員

助成の問題とワクチンの接種率の把握の状況、少し話がありましたけれども、是非、今後の対策を、今回も年度限ってのことになりそうですけれども、これからもこういった風しんの感染というのは、また爆発が起こるということも考えられますので、これを教訓にして、是非、恒常的な取組としてやっていただきたいということを要望して終わります。

古川委員

県の検査は国の補助があつて、ワクチンは市町村の単独事業っていうことですが、そのあたりの差はどうしてあるんですか。

柴原感染症・疾病対策室長

国の補助要項の中に女性の妊娠を希望される、主に妊娠を希望される方につきましては、補助が2分の1ということでございますので、その分について国の補助をしていただくようになっております。

古川委員

そしたら国はワクチンの接種については補助事業はないということですか。

柴原感染症・疾病対策室長

ワクチンの補助はございません。

古川委員

分かりました。ワクチン接種について各市町村は予算獲得してやると思うんですが、そのあたりの見込みはどんなんですか。各市町村議会も終わっていると思うんですけど、どんな形になりますか。

柴原感染症・疾病対策室長

平成25年度、平成26年度にワクチン接種の事業もございまして、一度されていたこともありまして、どこの市町村も大体前向きには考えてくださっているということで、県のほうが抗体検査の無料化をするというふうなことを踏まえて、一緒にやっていただけるのかなというふうに考えております。

古川委員

ではなくて、これから市町村のほうは制度立ち上げると思うんですけど、いつぐらいから立ち上がるような、助成ができるような想定をしてるんですか。

柴原感染症・疾病対策室長

県といたしましては、できるだけ本当にできるだけ早く一緒に実施できるように、またお願いもしていきたいと考えておりまして、担当者会でも御説明したのち、そういったいつからっていうのもきちっと整理をしていきたいと考えております。

古川委員

市町村によって本当にどうするかになりますが、議会で予算をして年明けからやる場所もあれば、専決処分ですぐにやる場所もあるっていうことなんですかね。

柴原感染症・疾病対策室長

まだ、こうはつきり申せないところもあるんですけども、できるだけ早く一緒にやって

いくというふうにこちらとしては考えているところでございます。

何度も、訂正で申し訳ございませんが、先ほどの男性28歳から56歳までの男性、約11万人と説明したんですが、約12万人でした。申し訳ありませんでした。

山西委員長

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、保健福祉部関係の調査を終わります。

これをもって、文教厚生委員会を閉会いたします。（13時44分）